

平成17年度「福井元気宣言」推進に係る施策の取組結果 (平成18年3月末現在)

「福井元気宣言」に掲げられた「元気な社会」や「元気な県政」のビジョンを着実に実現していくため、施策・事業の取組結果について、次のとおり報告します。

平成18年3月

教育長 西 藤 正 治

I 総括コメント

・夢と希望の未来像を視野に入れ、魅力ある人づくりに向け長期的展望に立った新しい施策に全力で取り組みました。

・30人学級編制導入などきめ細かな教育体制の拡充については、2年目となる「元気福井っ子笑顔プラン」に基づき、小学校1・2年にはボランティアと非常勤講師を、小学校3～5年にはティーム・ティーチングや少人数指導を、小学校6年～中学校3年には少人数学級編制を導入しました。

・「福井型コミュニティ・スクール」については、平成15年度からモデル校の設置を進め、今年度新たに14校を指定したことにより県内全市町に設置を完了し、各学校で家庭・地域・学校が連携した開かれた学校づくりを推進しました。

・高校生の学力向上については、教員の予備校派遣や予備校講師による研修会を開催し、教科指導力向上に取り組むとともに、学力向上のための教員を20人配置しました。また、各高校独自の学力向上策への支援、基礎学力診断テストおよび大学入試センタープレテストの実施など能力や個性に応じた教科指導や進路指導を充実するための各種施策に取り組みました。

・英会話力の向上については、小・中学校において、英会話力の向上と国際理解教育の推進のため、長期休業中にALT等の外国人講師を招いたセミナーを実施するとともに、英会話向上事業の指定校の実践研究等をまとめた研究報告書を作成し、県内全小・中学校に配付しました。高校においては、英会話力向上のための重点校を選定し、教材の購入費等の支援を行うとともに中学・高校の英語教員を対象に、教科指導力と英語指導力向上のための集中研修を実施しました。

なお、本年度の大学入試センター試験における英語リスニングテストにおいては、民間教育機関の調査により平均点が全国1位となりました。

・子どもの安全確保については、県下全214小学校区で子どもの見守り活動を行う「子ども安心3万人作戦」を展開しました。PTAや自治会をはじめ、緊急時の保護、連絡所となる「子ども110番の家」引受け者、タクシー防犯協会やシルバー人材センターなどの事業所の多くの方々に積極的に参加いただいています。また、すべての小・中・高校において安全マップ・危機管理マニュアルを作成しました。更に、広島県と栃木県で児童が殺害された事件を受け、緊急に児童一人ひとりの下校状況と通学路の一斉点検を行い、すべての小学校区で子どもが一人になる区間を解消するための取り組みを行いました。

・漢字・文字文化の普及・啓発を図るため、県立図書館内に「白川文字学の室」を設置し、白川静博士の研究成果等を展示するとともに、白川先生の講演会、親子で学ぶ漢字教室や国語科教員の特別研修等を開催しました。

・子どもたちをはじめ県民が、郷土の先人の意欲と気概を学び感じとるため、由利公正が起草した「五箇条の御誓文」の草稿原本を取得し、県立図書館、若狭図書学習センターで特別展を開催しました。またこの複製品を作成し、県内の全中学校に配付するとともに、教員用の指導資料集を県下の全小・中学校に配付して授業に活用しました。

・スポーツの振興については、いつでも、どこでも、だれもが気軽にスポーツを楽しめるスポーツ活動の場として「県民スポーツ祭」を今年度から開催し、市町村対抗の部39種目、交流の部52種目に約27,000人の県民が参加しました。また、今年度から創設されたスポーツ拠点づくり推進事業は、17年12月に越前町で「全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会」が開催され、男女合わせて41チーム、約700人の監督・選手が参加し、18年3月には美浜町において「全国中学校選抜ボート大会」が開催され18都府県から約130人の監督・選手が参加しました。さらに、新たなスポーツ人口の拡大を目指していきます。

・文化の振興については、平成17年10月22日から11月3日にかけて、県内全市町村を会場に「第20回国民文化祭・ふくい2005」を開催し、県内外から3万人を超える方々が出演され、観客も78万人を超え、全国に福井の文化、歴史を大いにアピールすることができました。地域を挙げてのもてなしの心溢れる大会と高い評価を得ました。

また、若い世代による伝統芸能やIT文化といった新しい活動とともに、各文化団体も様々な活動を行い、全国レベルの連携強化が図られました。

Ⅱ 「政策合意」の取組項目に係る結果について

・別紙「平成17年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)」のとおり

平成17年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)
(平成18年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例: 成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例: 成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例: 成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例: 成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例: 成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教 育 長	氏 名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
○ 重点項目		〔成果等〕 目標を達成しました。	
1 30人学級編制の導入 子どもたちの持てる可能性を最大限に伸ばすため、「元気福井っ子笑顔プラン」に基づき、学級編制基準の適正化等引き続き取り組むとともに、学校生活を支援するボランティア制度の一層の普及や非常勤講師の配置を進めます。		子どもたちの持てる可能性を最大限に伸ばすため、「元気福井っ子笑顔プラン」を継続して実施しました。	
〔 小学校1、2年 ボランティア制度の普及 非常勤講師の配置 小学校3～5年 ティーム・ティーチングや少人数指導の強化 小学校6年 少人数学級編制 38人 中学校1年 " 35人 中学校2・3年 " 38人 〕		〔 小学校1、2年 ボランティア登録者9,609人(2月末現在) 低学年学校生活科*ト非常勤講師の配置100人 小学校3～5年 ティーム・ティーチングや少人数指導の強化 小学校6年～中学校3年 少人数学級編制を実施 小学校6年 38人 中学校1年 35人 中学校2・3年 38人 〕	
2 高校生の学力向上 高校生の学力向上を図るため、普通科、総合学科設置校18校において高校生学力診断テストを実施するほか、予備校の衛星放送授業ビデオ講座の受講、大学入試問題の分析と解説書の作成、長期休業期間中に講義や演習を集中的に行う学習合宿の実施、大学のオープンキャンパスへの参加など各校独自の学力向上策を支援します。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		1 高校入学時の学力分析と生徒一人ひとりに応じた指導を実施しました。 (1) 5月に高校生基礎学力診断テスト(国・英・数)を実施 参加人数 4,164人 (2) 2月に第2回目を実施し、学習到達度をチェック (3) 11月に大学入試センター試験プレテストを実施 参加人数 3,155人 2 各校では、センター試験平均点や大学合格者数等の数値目標を設定し、オープンキャンパスへの参加、大学講師の模擬授業、合宿等を実施しました。	
学力向上策を検討するため、教育関係の各分野の委員で構成する「学力向上問題等協議会」を設置します。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		学力向上問題等協議会を3回開催し、今後の学力向上の取組みについて協議しました。	
教科指導や進路指導の充実を図るため、引き続き中核となる教員20人を配置するとともに、大手予備校への教員派遣や予備校講師による教員研修会を実施します。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		教員の指導力向上策を実施しました。 (1) 学力向上のための教員配置 20人 (2) 数学、理科の教員18人を予備校へ派遣 (3) 予備校講師による研修の実施 受講者数 国語42人、数学42人、英語46人	
3 子どもの安全確保 ・子どもの安全を確保するため、警察、市町村、地域住民など関係機関と協力し、登下校時や帰宅後等の子どもに対する見守り活動や安全マップ作成を推進します。 また、学校内の児童・生徒の安全管理を徹底するため、防犯教室の実施や危機管理マニュアルの充実により引き続き取り組みます。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
〔 子ども見守り活動参加者 30,000人 防犯教室の実施率 100%(420校) 安全マップの作成率 100%(420校) 〕		県下全214小学校区で子どもの見守り活動を行う「子ども安心3万人作戦」を展開しました。PTAや自治会をはじめ「子ども110番の家」引受者、更にはタクシー防犯協会やシルバー人材センターなどの事業所の方々にも積極的に参加いただいています。また、小・中・高校において安全マップ、危機管理マニュアルを作成するとともに、広島県と栃木県で児童が殺害された事件を受け、緊急に児童一人ひとりの下校状況と通学路の一斉点検を行い、総ての小学校区で子どもが一人になる区間を解消するため、登下校時の見守り活動の一層の強化に取り組みしました。	
		〔 子ども見守り活動参加者 約45,000人 防犯教室の実施率 100%(420校) 安全マップの作成率 100%(420校) 〕	

平成17年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成18年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教 育 長	氏名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
4 青少年の健全育成 少年非行を着実に減らすため、「福井県青少年育成アクションプラン」に基づき、民間団体と協力しながら、青少年の健全育成や非行防止対策を強化します。 （ボランティア活動の実施（ユースチャレンジャー隊） 7か所 非行防止一斉行動 街頭補導活動（各3日間） 夏休み期間2回 冬休み期間1回 マナー指導の強化 学業期間中2回（各3日間））		〔成果等〕 目標を達成しました。 青少年にボランティア活動を体験する機会を提供するとともに、補導活動等に際し民間団体との連携・協力に加え、現場の教員が多数参加するなど学校との連携を強化して取り組んだ結果、非行少年数は約7%、不良行為少年数は約39%減少しました。 （ボランティア活動の実施（ユースチャレンジャー隊） 県内7箇所で行委員会設置して実施 参加者数（目標）840人→（実績）1,903人 街頭補導活動（参加者 4,800人） 17年7月21日（木）～23日（土） 17年8月29日（月）～31日（水） 17年12月22日（木）～26日（月） マナー指導（参加者 253人） 17年11月14日（月）～16日（水） 18年2月13日（月）～15日（水） 非行少年数 16年 235人 → 17年 228人 不良行為少年数 16年 5,635人 → 17年 3,444人）	
児童・生徒の問題行動について実態に即した対応や抑止を行うため、市町村や関係機関で構成する「福井県児童・生徒問題行動地域対策会議」を県下11地域で開催します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 県下11地域で「福井県児童・生徒問題行動地域対策会議」を開催し、解決方法や防止策の検討を行うとともに、具体的に発生した問題行動の解決に向けたサポートチームを立ち上げて迅速に対応しました。	
5 高校生の就職支援 中学生から望ましい職業観・勤労観を形成するため、職場体験学習の一層の充実を図ります。また、高校生の望ましい職業観・勤労観を形成するため、地域の事業主等による講演会の開催や就業体験、職業適性検査を引き続き実施します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 全中学校で職場体験学習を実施したほか、高校生を対象に講演会や就業体験等を実施し、望ましい職業観・勤労感の形成を図りました。 また、新規高校卒業予定者の求人確保について、直接企業を訪問し協力要請をしました。 なお、高校卒業者の就職率については、全国第1位となっています。（平成17年3月卒業者） (1) 講演会を県立高校18校で実施 (2) 高校2年生を対象に県立高校18校で就業体験を実施 (3) 職業適性検査を県立高校18校で実施 (4) 進路指導担当者の研修会を実施 (5) 卒業生の就職先企業訪問実施	
地域の産業界が求める人材を育成するため、職業系高校において、企業ニーズを踏まえた多様な選択科目の開設や国家資格等の取得を目指したカリキュラムを編成します。 〔16年3月卒業生の就職後3年間の離職率40%未満の実現〕		〔成果等〕 目標を達成しました。 各学校の実情に合わせたカリキュラムを編成しました。	

平成17年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)
(平成18年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職		教 育 長		氏 名		西 藤 正 治	
取 組 項 目				取 組 結 果			
6 スポーツの振興 昨年度、本県で開催された全国スポーツ・レクリエーション祭の成果を一過性のものとせず、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを更に進めるため、今年度から県民体育大会と県スポーツ・レクリエーション祭を統合し、県民スポーツ祭を開催します。				〔成果等〕 目標を達成しました。			
				いつでも、どこでも、だれもが気軽にスポーツを楽しめるスポーツ活動の場として「県民スポーツ祭」を今年度から開催しました。（5月～1月） 市町村対抗の部 39種目 6,433人 交流の部 52種目 5,895人 高校生の部 31種目 6,361人 中学生の部 17種目 6,108人 競技役員 2,353人 計 (60種目) 27,150人 ＜県民体育大会＞ 平成16年度 一般（市町村対抗） 43競技 6,944人 高校生 29競技 6,217人 中学生 17競技 5,994人 ＜県スポーツ・レクリエーション祭＞ 平成15年度 24種目 5,482人 計 24,637人			
本県選手が全国レベルの競技会や国際大会で活躍できるよう、県体育協会や協議団体と協力し、ジュニア層の更なる強化や、スポーツ医・科学的サポートを行うとともに、強化費の傾斜配分等を行うことにより、競技力の向上を図ります。				〔成果等〕 目標を達成しました。			
				岡山県において開催された第60回国民体育大会では、団体で19種目、個人で32種目の入賞を果たすなど、昨年の成績を大幅に上回る、天皇杯24位、皇后杯24位と目標としていた20位台の成績を収めることができました。また、ジュニア層を中心に、ホッケーなど10競技で選手21名と3人の指導者が日本代表として海外遠征や国際大会に参加しました。 国体選手などの有望選手1,173人に対して、健康管理、適切なトレーニングなどのスポーツ医・科学的なサポートを行いました。 各競技団体の一貫指導体制を指導するため、研修会を8回実施しました。			
小・中・高校生が参加する各種スポーツの全国大会を継続的に開催し、スポーツの振興と地域の活性化を推進するため、市町村や競技団体と一体となって、「スポーツ拠点づくり推進事業」を実施します。				〔成果等〕 目標を達成しました。			
				今年度から創設された「スポーツ拠点づくり推進事業」については、17年12月に越前町で「全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会」が開催され、男女合わせて41チーム、約700人の監督・選手が参加し、18年3月には美浜町で「全国中学生選抜ボート大会」が18都府県から約130人の監督・選手が参加しました。			
17年度事業 美浜町 越前町 全国中学選抜シングルスカル選手権競漕大会 全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会							

平成17年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)
(平成18年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教 育 長	氏 名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
7 文化の振興 今年10月に開催する「第20回国民文化祭・ふくい2005」を成功させるため、関係方面の協力を得ながら全庁体制で積極的に取り組みます。また、大会を通じて、全国に情報発信できるような取組みを推進します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 「第20回国民文化祭・ふくい2005」を開催しました。 (1) 開催期間 10月22日～11月3日 (2) 開催場所 県内27市町村 116会場 (3) 開催事業数 67事業 (4) 出演者数 2,077団体 30,842人 (5) 観客数: 785,863人 この大会を通じて福井の文化、歴史等を全国に大いにアピールできました。	
国民文化祭を契機とした文化の振興を図るため、今後の文化振興施策について、引き続き有識者等に意見を求めるとともに、県民の文化活動の発表、交流の場となる、より親しみやすい県民文化祭の開催など新たな文化事業の検討を進めます。		〔成果等〕 目標を達成しました。 今後の本県の文化振興について、国民文化祭後に参加した分野別、地域別、年齢別の多くの方々との意見交換会を実施しました。 これらの意見を踏まえて、ふくい県民総合文化祭（仮称）の開催など、子どもから大人まで広く県民が日常生活の中で優れた芸術、文化に親しみ、楽しみ、深く学ぶことのできる取組みを推進することとし、特に子どもたちが本物の芸術文化に親しみ、関心を持つためのきっかけづくりとして、学校や地域において芸術文化を鑑賞、体験する機会を充実することとしました。	
県立恐竜博物館を全国にアピールするため、基礎的な研究開発の強化はもとより、恐竜関連商品の開発・販売の充実など営業面を重視した取組みをはじめ、JRとタイアップした恐竜展示PR、様々な恐竜イベントへの出展など積極的なセールス活動による誘客促進などを進めます。		〔成果等〕 目標を達成しました。 県立恐竜博物館を全国にアピールするため次のような取組みを実施 (1) JR福井駅コンコースでの恐竜骨格の展示 (4月19日～9月12日) (2) JR神戸駅コンコースでのPR活動展開(4月22日) (3) オリジナルなミュージアムグッズ開発(恐竜フィギア) (4) 恐竜全身骨格組立体験の実施(横浜・福井7月～9月) (5) 横浜、大阪で開催された「ジュラ紀大恐竜展」に福井県立恐竜博物館コーナーを設置 横浜会場 パシフィコ横浜 7月16日～8月28日 大阪会場 大阪ATCホール9月10日～10月16日 展示内容 フクイサウルス全身骨格・足跡化石 (6) ミュージアムショップの運営をはじめ、経営的視点に立った館運営の在り方の検討	
本県の歴史文化を全国に情報発信するため、本県ゆかりの歴史的人物に関連した文化事業について、他自治体とも連携しながら積極的な取組みを進めます。		〔成果等〕 目標を達成しました。 三国町に在住歴のある詩人の三好達治にちなみ、大阪市が主催した「三好達治賞」に協力しました。 また、福井出身の橋本左内、梅田雲濱の墓が荒川区回向院にあることから荒川区民祭(17.4.29)に参加し、本県をアピールしました。	

平成17年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成18年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教 育 長	氏 名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
○個別項目		〔成果等〕 目標を達成しました。	
1 学校教育の充実 (1) 英会話力の向上 グローバル社会において幅広く活躍する人材を育成するため、児童・生徒の英会話力を養成します。小・中・高校において、外国人講師を招いた英会話教室等を実施するとともに、長期休業期間等に子どもたちがALTと触れ合う機会を増やします。また、中・高校の英語教員180人を対象に指導力向上の研修を行います。		1 小学校5校、中学校1校、高校3校で英会話力向上のための取り組みを積極的に推進しました。 (1) 県内4地域で中学校英語セミナー実施 (2) 指定小・中学校の研究成果報告書を全小・中学校に配付 2 中・高校の英語教員140人を対象に、教科指導力と英語力向上のための研修を10回実施しました。 なお、これにより県下の全中・高校の英語教員研修が完了しました。	
(2) 県立高校の再編準備 生徒数の減少等に伴い、その適正規模の検証や機能強化に向けた県立高校の再編、統廃合について検討を行い、福井県高等学校教育問題協議会に諮る準備を進めます。		〔成果等〕 目標を達成しました。 平成17年8月に「福井県学力向上問題等協議会」の中に、教育関係者、経済界、マスコミ関係者等からなる「県立高校再編整備検討会」を設置し、中・長期的な観点から、幅広く意見を聞いています。 これまでに、生徒数の推移、各学校の現状と特色づくりに向けた取組みの状況等について議論を行っており、今後、県立高校の目指すべき方向や適正規模・配置等について更に論議を深め、検討会としての考え方をとりまとめた後、「福井県高等学校教育問題協議会」に諮問します。	
(3) 「中高一貫教育」の推進 今年度から福井型中高一貫教育を3地域で実施するに当たり、児童・生徒が適切に進路選択できるよう広報活動を行います。また、連携クラスの編制や指導方法の工夫、中高の交流活動等について具体的な実施手法を研究します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 中高一貫教育研究会議を5回開催し、簡便な方法による入学選抜および各地域の実情に応じた連携クラスの編制等について検討を行うとともに、啓発活動や交流の推進を図りました。 (1) 福井型中高一貫教育の啓発リーフレットを作成し、県内の全ての小学5・6年生と中学1年生に配付 (2) 3地域において、授業、学校行事、部活動などで、教員・生徒の交流を活発に実施 (3) 三方・美浜地域では12月に連携クラスの生徒選考を実施 今後は、それぞれの地域において高校の学習内容を先取りするなど特色ある教育活動に取り組みます。	
実施地域 あわら地域 金津高校、芦原中学校、金津中学校 朝日地域 丹生高校、朝日中学校 三方・美浜地域 美方高校、三方中学校、美浜中学校			

平成17年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)
(平成18年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教 育 長	氏 名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
(4) 高校入試制度の改善 生徒の能力・適性や進路希望等の多様化に対応するため、出願方法や問題作成のあり方、入学後の進路変更等について検討を行います。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		入試を前期日程と後期日程に分け実施する「受験機会の複数化」、各高校が、学力検査において、各学校・学科の特色に応じた自校問題を使用する「学校独自問題」、入学後の進路選択のミスマッチに対応する「入学後の進路変更システム」等について幅広く検討しました。	
(5) 不登校等対策の総合的推進 不登校の未然防止や早期発見、早期解決を図るため、児童・生徒や県民に向けた不登校に関する総合的な施策を実施するとともに、最も多感な時期の生徒を抱える中学校に「心の専門家」であるスクールカウンセラーを配置します。 また、研修等を通じカウンセリングマインドを持った教員を増やすほか、高校に専門的なカウンセリングの知識や技能を身に付けた教員を配置します。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		1 不登校未然防止に向け、小・中学校間の交流活動を実施しました。(10中学校区) 2 子どもの話し相手となる大学生を「心のパートナー」として小・中学校等に派遣しました。 〔心のパートナー派遣回数 1,201回(18年2月末現在)〕 3 電子メールによる悩みや不安に対する相談を実施しました。 〔相談件数 565件(18年2月末現在)〕 4 スクールカウンセラーを中学校70校に配置しました。 5 教員や一般県民対象のカウンセリング研修会を県内5地域で12回開催しました。 6 全県立高校に専門的なカウンセリングの知識や技能を身に付けた教員を配置しました。	
(6) 学級特別サポートの推進 障害のある児童・生徒にきめ細かな指導を行うため、特別な支援を必要とする児童のいる小学校や特殊学級に在籍する児童・生徒の多い小・中学校に非常勤講師を配置します。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		一斉指導で対応できない特別な支援を必要とする児童のいる小学校に、非常勤講師を15人配置しました。 特殊学級に在籍する児童・生徒の多い小・中学校に、非常勤講師を5人配置しました。	
(7) 県立高校の冷房設備の整備促進 生徒の学習意欲を喚起するため、今年度、新たに県立高校3校について、冷房設備の整備を支援します。 〔15,16年度:17校 17年度:3校 18年度:12校〕		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		県立高校3校の冷房設備を整備しました。	
(8) 小・中学校の耐震化促進 災害時における児童・生徒や地域住民の安全・安心の確保を図るため、小・中学校の耐震診断未実施のすべての棟について、3年間で耐震診断を行います。 また、診断の結果、耐震化の緊急度が高いと判断された棟について、5年間で耐震補強工事を行います。 17年度計画 耐震診断 104棟 補強工事 8棟 19年度まで 耐震診断:100% 21年度まで 補強工事:緊急度の高い棟の実施率100%		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		耐震診断については、108棟実施しました。 耐震補強工事については、補強工事13棟、改築工事12棟、計25棟の耐震化を図りました。	

平成17年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成18年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教 育 長	氏名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
2 教員の資質向上 (1) 教員採用試験の改善 教育者としての使命感や倫理観、意欲、適性、人間性、専門教科等に関する知識・技能等を総合的に評価するため、教員採用試験の見直しを引き続き行います。		〔成果等〕 目標を達成しました。 平成18年度採用選考試験においては、面接員の民間企業人事担当者等の割合を拡大するとともに、個人面接の時間を延長し、より人物評価を重視した選考を行いました。 また、身体障害者を対象とした選考を実施要項に明記し、1名を採用内定としました。 さらに、「英語」受験者に対しては、2次試験において英語による口頭試問を実施し、英会話の能力を評価しました。 平成19年度採用選考試験では、受験年齢制限の撤廃と、講師経験者に対して1次試験を免除することとしました。	
(2) 教員研修の充実等 教員の専門性を高め、社会人としての視野を広げるため、民間人講師による講座開設や社会体験研修の充実に取り組みます。また、指導力不足等教員については、教員の資質等に関する評価委員会を開催し、その答申を踏まえて、校内指導や校外研修等により指導力の回復に向けた研修を行います。		〔成果等〕 目標を達成しました。 教員の資質向上に向け、教育研究所等で研修講座を実施しました。特に、県・市町村の出身機関や民間企業において89カ所の社会体験研修を実施するとともに、民間人講師による研修講座を28講座実施しました。 また、指導力不足等教員については、「教員の資質等に関する評価委員会」を4回開催し、その答申を踏まえ、指導力回復に向けた研修に取り組んでいます。 〔 教育研究所 151講座 嶺南教育事務所 37講座 特殊教育センター 17講座 〕	
(3) 校長・教頭選考試験の改善 優秀な人材を幅広く確保するため、特に教頭任用選考試験の実施に当たっては、要件を満たし、希望するすべての教員が受験できることを更に周知します。 また、女性管理職の積極的な登用に取り組みます。 〔 18年4月の女性校長・教頭の登用目標 25% (17年4月現在 21.9%) 〕		〔成果等〕 目標を達成しました。 教頭任用選考試験において、要件を満たし希望するすべての教員が受験できることを周知徹底しました。その結果、今年度の教頭任用選考試験においては、小・中261名、県立94名が受験し、倍率は、小・中3.2倍、県立4.7倍でした。 また、女性管理職の登用については、平成18年度人事異動において、女性登用率25%を達成しました。 〔 18年4月の女性管理職の登用 校長63人、教頭101人 計164人 (25.1%) 〕	
3 家庭・地域・学校の連携、生涯学習の振興 (1) 「福井型コミュニティ・スクール」の推進 新たにモデル校を14校指定し、保護者や地域の代表と学校関係者で構成する「地域・学校協議会」による開かれた学校づくりを進めます。 〔 コミュニティ・スクール設置市町村 15年度 3市町村 (3校) 16年度 11市町村 (累計14校) 17年度 14市町村 (累計28校) 〕		〔成果等〕 目標を達成しました。 新たにモデル校(14校)を指定し、地域に開かれた学校づくりを進め、全市町にモデル校を設置しました。 (モデル校) 福井市足羽小・美山中・越廼中・清水中、永平寺町吉野小・永平寺中、坂井市雄島小・大石小・木部小、池田町池田第一小、南越前町南条中、若狭町野木小、おおい町大島小・名田庄中	

平成17年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)
(平成18年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教 育 長	氏名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
(2) 地域の教育力の向上 地域の教育機能を強化するため、地域づくりの活動拠点として自治会単位で活用できる「ふれあい会館」の計画的な整備を進めます。 〔 ふれあい会館整備…年間10館 〕		〔成果等〕 目標を達成しました。 市町村から要望のあった「ふれあい会館」3館についてはすべて整備しました。	
地域コミュニティの形成に向けた住民主体の公民館活動を活性化するため、公民館が地域のニーズに対応して行う事業を支援するほか、運営や事業推進に携わる公民館職員の資質向上を目指した専門研修を実施します。 〔 公民館職員専門研修受講者数…200人 〕		〔成果等〕 目標を達成しました。 公民館が中心となり、地域問題の解決や連帯感を高める事業を実施する66地区に助成するとともに、公民館職員専門研修を4回開催し、延べ219人が受講しました。	
公民館等において、放課後や週末の子どもの居場所づくりとして、スポーツや文化活動など様々な体験活動や地域住民との交流活動を行う「地域子ども教室」の積極的な実施に取り組みます。 〔 地域子ども教室参加者数…150,000人 〕		〔成果等〕 目標を達成しました。 地域子ども教室は、県内148箇所で開催され、地域のボランティアの協力の下、延べ約17万人の児童・生徒が参加しました。	
(3) 生涯学習機会の充実 漢字学習の推進により、文字文化の普及・啓発を図るため、県立図書館内に白川静氏の研究成果等を展示する「白川文字学の室」を設置するとともに、漢字学習講座等を開催します。 〔 漢字学習講座受講者数…800人 〕		〔成果等〕 目標を上回って達成しました。 「白川文字学の室」を4月23日に開設、白川先生の著作145冊や直筆原稿、関連図書69冊、金文や甲骨文字のレプリカ、講演ビデオなどを展示し、3月末までに約10,000人の来室がありました。 漢字学習講座受講者 985人(延24回)	
県立図書館について、「産業支援コーナー」の開設など幅広い県民ニーズを反映し、いつでも学べる環境を提供するなどのサービスの向上に取り組みます。 〔 県立図書館入館者数…700,000人 〕		〔成果等〕 目標達成にはいたりませんでした。 産業支援コーナーには、商用データベースや関連図書を配置し、延べ600人がデータベースを利用し、6,200冊の貸出しがありました。 〔 県立図書館入館者数(2月末現在) 530,114人 〕	
幼児が文字等に親しむ環境づくりを進めるため、保育士、幼稚園教諭、ボランティア等の幼児教育関係者を対象に、絵本等の読み聞かせ手法のレベルアップ研修に取り組みます。 〔 幼児読書研修参加者数…400人 〕		〔成果等〕 目標達成にはいたりませんでした。 幼児読書の研修会を県内8会場で実施しました。 また、17年7月に「五箇条の御誓文」草稿原本を取得し、県立図書館と若狭図書学習センターで特別展を開催しました。県内全中学校にはこの複製品を、県内全小・中学校には教員用指導資料集を配付し、郷土の先人の気概に学ぶ学習を進めました。 〔 幼児読書研修参加者数 335人 特別展観覧者数 約8,000人 〕	

平成17年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成18年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教 育 長	氏名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
4 ふくい文化の創造およびスポーツの振興 (1) 歴史・文化の香りたけようまちづくりの推進 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の活用を図るため、平成17年度から平成26年度までを計画期間とする「一乗谷朝倉氏遺跡整備・活用新10か年計画」に基づき、県道篠尾勝山線のバイパス工事、鯖江美山線の現道拡幅工事などアクセス整備に着手します。また、発掘整備のスピードアップを図り、発掘現場見学コースの整備を進めます。		〔成果等〕 目標を達成しました。 新10か年計画（H17～26）による一乗谷朝倉氏遺跡整備・活用推進事業の推進 (1) 遊歩道沿いの平地部の発掘調査（3,000㎡）と平面復原（3,800㎡）を実施 (2) 福井豪雨による災害復旧（朝倉館跡の法面675㎡）の実施 (3) 周辺のアクセス道路の早期整備に向けて、地区合意終了 (4) 遊歩道の完成や見学ステージの設置による発掘現場見学コースの整備	
一乗谷朝倉氏遺跡を全国にアピールするとともに、本県の観光振興を図るため、国民文化祭関連イベントを核として誘客活動を促進します。また、「一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会」を中心に、遺跡とその周辺を資源とした中長期的活用推進策や短期的な誘客活動について引き続き検討するとともに、来訪者の満足度向上や新たな誘客事業を推進します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 一乗谷朝倉氏遺跡を全国にアピールするため年間を通じて多彩なイベントの開催 「越前朝倉糸桜まつり」（17年4月 約15,000人） 「朝倉氏遺跡・復原町並復興記念 朝倉ゆめまるまつり」（17年7月 15,000人） 「第20回国民文化祭・ふくい2005 朝倉文化フェスティバル」（17年10月 16,500人） 「県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館企画展」（17年10月13,300人） 「一乗谷朝倉氏遺跡吟行俳句大会」（17年11月 90人） 「朝倉四季の写真コンテスト」（春夏秋冬 200点） 「一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会」で検討を行うとともに、同協議会が中心に来訪者へのサービス提供として、共通観覧券の発行（7,000枚）、朝倉いっぶく茶の運営（6,000杯）、遺跡案内ボランティア（20人）活動を展開しました。	
(2) 公共施設（文化施設）の利用促進 すべての地域の県民が文化に触れる機会を確保するため、嶺南地域において、移動美術館（年3回）や移動企画展（年1回：今年度は恐竜博物館）を引き続き開催するとともに、嶺南地域から福井市内の中核的文化施設への直行送迎バス「フレンドリーアート号」の運行（年8回）を継続します。また、本物の音楽に触れる機会を増やすため、県立音楽堂の公演において児童・生徒の無料招待を進めます。		〔成果等〕 目標を達成しました。 1 嶺南地域における移動美術展、移動企画展を開催しました。 (1) 移動美術展 小浜展（2回 若狭歴史民俗資料館） 敦賀展（1回 プラザ萬象） (2) 移動企画展 恐竜博物館移動企画展 （1回 若狭歴史民俗資料館） (3) 総入場者数 7,376人（18年2月末現在） 2 県立音楽堂への児童・生徒の無料招待を実施しました。 (1) 招待者数 466人（18年2月末現在） 〔フレンドリーアート号の運行 年8回 平均乗車人数 32人〕	
県立図書館の利用者の利便性を高めるため、福井駅前と県立図書館等を結ぶフレンドリーバスの運行を継続します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 フレンドリーバス利用者数（2月末現在） 76,248人	
文化施設の効率的な管理運営を進めるため、昨年度、恐竜博物館および音楽堂について作成したバランスシートを他の4文化施設においても作成し、コスト意識を重視した民間の経営手法の導入を図ります。		〔成果等〕 目標を達成しました。 全ての文化施設（歴史博物館、恐竜博物館、美術館、若狭歴史民俗資料館、一乗谷朝倉氏遺跡資料館、県立音楽堂）についてバランスシートを作成しました。今後ともコストやサービス内容を見直し、より社会のニーズに沿った運営に努めます。	

平成17年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成18年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教 育 長	氏 名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
文化施設の入館者の増加や施設の有効利用を図るため、セールス活動を強化するとともに、エントランスホール等の利用促進を図ります。		〔成果等〕 目標を達成しました。 文化施設への入館者増を図るため、観光商談会での誘客活動や近隣学校でのPRを実施しました。 また、県立音楽堂において結婚式の実施や恐竜博物館においてジャズコンサートの開催など文化施設の利用を促進しました。	
(3) スポーツイベント等の開催 「2005少林寺拳法国際大会」(10月)や「第44回NHK杯体操競技鯖江大会」(7月)等の開催において本県をアピールするとともに、県内スポーツの振興に取り組みます。		〔成果等〕 目標を達成しました。 スポーツイベント等の開催については、大会参加者等への県内観光パンフレットの配布や、大会会場内での地場産品の販売など本県の良さを広くアピールしました。 (1) 都道府県対抗第18回全日本マスターズ駅伝大会 平成17年4月16日～17日 「鯖江市」 730人 (2) 第44回NHK杯体操競技選手権鯖江大会 (TV放映) 平成17年7月7日～9日 「鯖江市総合体育館」 100人 (3) 第10回全日本レディースソフトボール大会 平成17年9月16日～19日 「福井市総合運動公園」 950人 (4) 2005少林寺拳法国際大会 in FUKUI 平成17年10月9日～10日 「サンドーム福井」 3,500人 (5) 第74回全日本9人制バレーボール総合女子選手権大会 平成17年11月25日～28日 「県営体育館他」 950人 (6) 第57回全日本総合ハンドボール選手権大会 平成17年12月21日～25日 「県営体育館他」 530人 (7) 第34回全国高等学校選抜バトミントン大会 平成18年3月24日～27日 「敦賀市体育館」 530人	
5 「ふくい2030年の姿」の具体化 (1) 子どもの自立と自学 学習面でのきめ細かな指導や社会の一員としての自覚、学び続ける意欲等を育てるための時間を確保する手段の一つとして、小・中・高校における二学期制の是非を含め学期のあり方について検討し、年度内に県の指導指針をまとめます。		〔成果等〕 目標を達成しました。 県教育委員会内に、小・中・高校のPTA・校長・教職員組合、市町村教育委員会教育長からなる二学期制検討委員会を設置し、6回にわたり協議を行い、県の指導指針を示す報告書を作成しました。 今後、各学校で更に試行や検討を重ねていく予定です。	
(2) 誇りを生み出すスポーツ文化 いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指すため、地域のスポーツ活動拠点となる総合型地域スポーツクラブの創設や運営を支援します。 〔クラブ育成のための指導者等の派遣 延べ80回〕		〔成果等〕 目標を達成しました。 地域のスポーツ活動拠点となる総合型地域スポーツクラブの創設支援を行いました。 〔17年度における新規創設クラブ 2クラブ 清水スポーツクラブ(福井市) 東陽スポーツクラブ(鯖江市) クラブ育成のための指導者等の派遣 延べ80回〕	